

科目名	長崎県北の歴史と文化－西海学		
-----	----------------	--	--

科目番号	A-12	開設大学名	長崎県立大学 佐世保校
開講場所	長崎県立大学 佐世保校	教養・専門の別	専門
		単位数	2単位
開講期間	平成24年4月13日(金)～ ～平成24年7月27日(金)	曜日	金曜日
		時限	3時限目
開講時間	13時00分～14時30分 (90分) 「毎週金曜日」	授業定員	100人 (うち単位互換定員 20人)
		履修年次	3年次以上
実習費等	なし	選考方法	書類選考
その他特記事項	テキスト『平戸・西海学』使用予定	試験・評価方法	レポート及び出席その他授業への取組による

開講日	講義名	担当教員
① 4月13日	はじめに：科目趣旨および全体講義概要について	山田 千香子 長崎県立大学佐世保校地域政策学科教授 吉居 秀樹
② 4月20日	北松地方の人類活動の始まりー洞窟遺跡を中心として(旧石器～縄文)	川内野 篤 佐世保市教育委員会 社会教育課教育文化係
③ 4月27日	倭国から大和朝廷に至る時代の北松地方(弥生～古墳)	北島 聖美 平戸市教育委員会 文化遺産課文化遺産班
④ 5月11日	元寇と鷹島海底遺跡(平安～鎌倉)	中田 敦之 松浦市教育委員会 生涯学習課
⑤ 5月18日	中世五島と海外交流(平安～室町)	塚原 博 小値賀町教育委員会 小値賀町歴史民俗資料館
⑥ 5月25日	北松地方の城郭(平安～江戸)	久村 貞男 佐世保地区連合史跡保存会代表
⑦ 6月1日	南蛮貿易とキリシタン(戦国～現代)	中園 成生 平戸市生月町博物館 島の館
⑧ 6月8日	平戸と中国貿易(戦国～江戸)	岡山 芳治 財団法人 松浦史料博物館
⑨ 6月15日	平戸和蘭商館(江戸)	萩原 博文 平戸市教育委員会 文化遺産課
⑩ 6月22日	平戸松浦氏と平戸藩の成立①(江戸)	木田 昌宏 財団法人 松浦史料博物館
⑪ 6月29日	長崎県北の文化遺産と平戸藩主②(江戸)	久家 孝史 財団法人 松浦史料博物館
⑫ 7月6日	平戸藩の文化③(江戸)	浦部 知之 平戸市振興公社 平戸城
⑬ 7月13日	西海捕鯨業(江戸)	中園 成生 平戸市生月町博物館 島の館
⑭ 7月20日	県北窯業史<平戸、三川内、波佐見>(江戸)	中野 雄二 波佐見町教育委員会 文化財保護係
⑮ 7月27日	終わりに(講師によるパネルディスカッションおよび質疑応答)	

連絡先 長崎県立大学 佐世保校 学生支援課 教務グループ TEL 0956-47-5706 FAX 0956-47-4616

(科目内容) 本講義では本学が設置されている「長崎県」をテーマとして、西海という海上を舞台とした視点から歴史や文化、文化交流、文化遺産について体系的に考えていく。とくに平戸を中心とした長崎県北の歴史と文化に焦点をあてる。歴史区分設定は古代から近世までとしている。長崎県北の歴史や文化、文化遺産について理解を深めること。とくに「海」を中心として展開されてきた歴史や文化であることや、その背景となる「西海圏」の広がりに気づき、東アジアを含めて全体的に俯瞰できることを目標としている。本地域在住の研究者(12名)によるオムニバス形式の講義である。

学生の感想

学生A:  
地域をつくることには、まず第一に地域を知ることはじめなくてはならないことを実感した。地域計画といっても、何も無い土地に建物を作ったり、制度を導入するわけではない。まず、先にその土地の自然環境があり、人があり、そして人々の生活がある。地域によって異なる条件をもつものだから、そのうえに行われる政策も異なるはずだ。そのために、学術調査は不可欠のものであり研究者の必要性を感じた。

学生B:  
グローバル化の進展とともに、地域特性はつぶされてきた。日本では全国総合開発計画が一律の基準を地域に押し付けてきた。それによって崩壊しつつあるアイデンティティをまちづくりで復活させなくてはいけない。地域の歴史や文化が人を創ってきたアイデンティティの源である。必要不可欠なものだと知った。学術調査によって裏打ちされた地域学を踏まえてまちづくりを行っていくことが必要であると感じた。

